

令和2年度 推薦入試試験問題(文学科 英語英文学専攻) 解答例

問1 (30点)

【採点のポイント】

- ・ガウェインが死を覚悟した理由を説明しているか。
- ・高校で習得する程度の語彙力、および日本語表現能力があるか。

【解答例】

ガウェインは、緑の騎士とのゲームのルールに従って、緑の騎士の城で自らの首を切られることになっていたから。(52字)

問2 (70点)

【採点のポイント】

- ・2つの教訓に関する内容であるか。
- ・自分の考えを具体的に述べているか。
- ・文章を論理的に構成しているか。
- ・高校で習得する程度の語彙力、および日本語表現能力があるか。
- ・540～600字で書いているか。

【解答例】

この物語は「決してうそをつくな」「常に自らの価値観に従って行動せよ」という人生の教訓を読者に与えている。確かに立派な教訓であるが、「決して」うそをつかないのは現実的でないと思う。自らの価値観に従って行動し、決してうそをつかない人物と言え、課題文にあるガウェインのほかに、シェイクスピアの『リア王』に登場するコーディリアが挙げられる。彼女の父、リア王は老いの身から煩わしい務めを振り払い身軽になって余生を送りたいと考え、王国の分割を家臣の前で宣言した。リア王は娘たちに領地を与えるにあたって、大胆にも公の場所で愛情テストを試みた。長女ゴネリルと次女リーガンは父の性格を知っていたため、媚びて首尾よく領地を手に入れた。一方、三女のコーディリアは結婚すれば父親だけに愛を捧げることはできないと正直に答えた。そのため彼女は勘当され、国王としてのリアと父親としてのリアの悲劇を誘発する原因を作ることになった。確かにコーディリアは自らの価値観に従って「真実」を述べたと思う。だが、彼女は同時に国を巻き込むような悲劇を起こしてしまった。もしコーディリアが姉たちのようにうそをついていたならば、この悲劇は起きなかったかもしれない。この

例から「常に自分の価値観に従い、決してうそをつくな」という教訓が悪い結果を生むことが分かる。私には「うそも方便」ということわざの方がしっくりくる。(583字)